

令和7年度第3回

長沼町教育委員会臨時会会議録

令和7年11月14日 開会

令和7年11月14日 閉会

長沼町教育委員会

令和7年度第3回長沼町教育委員会臨時会会議録

1. 日 時 令和7年11月14日（金）15時30分～16時00分

2. 場 所 長沼町役場 3階第1・2会議室

3. 出席者

教育長 八 柳 圭
委員 田 村 昭 夫
委員 天 野 広 道
委員 桃 野 千 恵 子
委員 菊 地 貴 弘

4. 欠席委員 なし

5. 事件説明のため出席した職員

学校教育参事 藤 田 祐 二 以下関係職員
社会教育課長 居 上 透 以下関係職員

6. 会議事件 別紙議事日程のとおり

7. 議 題

事件番号	事 件 名	審議結果	議決年月日
報告第1号	全国学力・学習状況調査結果について	報告済み	7.11.14
議案第1号	長沼町教育実践奨励表彰被表彰者の決定について	原案可決	7.11.14

指導・工夫・改善を図るため、調査結果の概要をまとめましたので、別冊のとおり報告するものであります。

別冊でお配りしている報告書に基づき、ご説明申し上げます。

表紙をご覧ください。枠囲みにありますとおり、この報告書は、北海道教育委員会が北海道版結果報告書を公表したことを受け、長沼町の結果及び今後の方策を示し、各学校の指導の工夫改善に生かすことをねらいとして公表するものです。

1 ページをご覧ください。目次です。本年度は、ご覧のように内容を構成しています。

2 ページをご覧ください。調査の概要です。1の「調査の目的」については記載のとおり3点、2の「調査の対象」については小6と中3、3の「調査の内容」について、教科に関する調査は、本年度、国語、算数・数学、理科の3教科、加えて児童生徒質問調査となっています。なお、中学校理科はオンライン方式による調査となっています。

3 ページをご覧ください。結果の概要です。1の「教科に関する調査」について、レーダーチャートと4種類の表で結果を表しています。レーダーチャートの線の色は、青が長沼町、赤が北海道、緑が全国です。本年度は小・中学校のすべての教科において、全国・全道を下回りました。下の表につきましては、1つ目の表が全国を100とした場合の数値で、レーダーチャートに反映しているものです。2つ目の表は全国を100とした場合の全国との差、3つ目の表は各教科の平均正答率、4つ目の表は各教科の平均正答率の全国との差をそれぞれ示しています。なお、中学校理科については、数値の表し方がこれまでと変更になっていますことを申し添えます。

4 ページをご覧ください。平均正答率の年度の推移です。小・中学校のすべての教科とも、昨年度より全国との差が大きい状況です。

5 ページをご覧ください。2の「質問調査」について、(1)として、「生活習慣や学習習慣等に関する項目」を示しています。太枠で囲んであるものについて、長沼町の結果の欄は、令和6年度を上回っているもの、全国比の欄は、全国平均を上回っているものです。長沼町の結果を見ますと、授業改善の項目で改善が図られている状況がうかがえます。

6 ページをご覧ください。(2)として、「ウェルビーイングの向上に関する項目」を示しています。表の見方は前のページと同様です。長沼町の結果を見ますと、半数以上の項目で令和6年度を上回っており、児童生徒がより良い状態を実感している様子がうかがえます。

7 ページをご覧ください。教科に関する調査について、小学校の教科ごと、中学校の教科ごとに、見開きで2ページを使い、18ページまで結果を掲載しています。このページは小学校国語の結果です。(1)として、「領域、評価の観点、問題形

式」のくくりで、レーダーチャートと4種類の表で結果を示しています。レーダーチャートにあります(1)から(3)、AからCが「領域」、知識・技能と思考・判断・表現が「評価の観点」、選択式から記述式までが「問題形式」となります。いずれの項目についても全国を下回り、特に、「読むこと」の差が大きい状況です。4種類の表の見方は先ほどの説明と同様です。

8ページをご覧ください。(2)小学校国語の「正答数の少ない層」の状況です。下のグラフと表を見ますと、令和7年度においては、正答数の少ない層の児童が、全国と比べて13.4ポイント多いという状況が読み取れます。

9ページをご覧ください。小学校算数の結果です。レーダーチャートにありますAからDが「領域」です。「評価の観点」「問題形式」は国語と同様です。問題形式の「選択式」以外は全国を下回り、特に「記述式」の差が大きい状況です。

10ページをご覧ください。小学校算数の「正答数の少ない層」の状況です。下のグラフと表を見ますと、令和7年度においては、正答数の少ない層の児童が、全国と比べて4.6ポイント多いという状況が読み取れます。

11ページをご覧ください。小学校理科の結果です。レーダーチャートにあります「『エネルギー』柱とする領域」から「『地球』を柱とする領域」が「領域」です。「評価の観点」「問題形式」は、国語、算数と同様です。いずれの項目についても全国を下回り、特に「『エネルギー』を柱とする領域」の差が大きい状況です。

12ページをご覧ください。小学校理科の「正答数の少ない層」の状況です。下のグラフと表を見ますと、令和7年度においては、正答数の少ない層の児童が、全国と比べて12.1ポイント多いという状況が読み取れます。

13ページをご覧ください。中学校国語の結果です。小学校同様、(1)として、「領域、評価の観点、問題形式」のくくりで、レーダーチャートと4種類の表で結果を示しています。レーダーチャートにあります(1)、AからCが「領域」です。「評価の観点」「問題形式」は小学校と同様です。いずれの項目についても全国を下回り、特に「記述式」の差が大きい状況です。

14ページをご覧ください。(2)中学校国語の「正答数の少ない層」の状況です。下のグラフと表を見ますと、令和7年度においては、正答数の少ない層の生徒が、全国と比べて12.5ポイント多いという状況が読み取れます。

15ページをご覧ください。中学校数学の結果です。レーダーチャートにありますAからDが「領域」です。「評価の観点」「問題形式」は国語と同様です。いずれの項目についても全国を下回り、特に「思考・判断・表現」「記述式」の差が大きい状況です。

16ページをご覧ください。中学校数学の「正答数の少ない層」の状況です。下のグラフと表を見ますと、令和7年度においては、正答数の少ない層の生徒が、全

国と比べて11.2ポイント多いという状況が読み取れます。

17ページをご覧ください。中学校理科の結果です。中学校理科は、先ほど述べましたとおり、本年度からオンラインによる調査となっていることから、項目反応理論に基づくIRTスコアという数値を使用しています。上から3つ目の表の「IRTスコア集計値」を見ますと、長沼町は477、全国は503となっており、全国を下回っている状況です。

18ページをご覧ください。中学校理科の「問題別集計結果」を示しています。太枠の囲みの部分は、全国を上回っている項目であり、「正答率」では10問中5問、「無回答率」では10問中8問が上回っている状況です。

19ページをご覧ください。質問調査の結果です。小学校が24ページまで、中学校が25ページから27ページまで結果を掲載しています。このページは、小学校の「生活習慣・学習習慣」の結果です。レーダーチャートと表の見方はこれまでと同様です。「新聞を読んでいる」は全国を上回りましたが、それ以外は全国を下回っており、特に、下側の「土曜日や日曜日の勉強の時間」の差が大きい状況です。

20ページをご覧ください。「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、社会参加等」の結果です。12項目中10項目で全国を上回り、特に、左上の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」、右側の「人が困っているときは進んで助けている」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の差が大きい状況です。一方、「学校に行くのは楽しいと思う」については、全国を下回り、その差が大きい状況です。

21ページをご覧ください。「ICTの活用」のうち、①として基本的な操作にかかわる回答の結果です。4項目中3項目で全国を上回りました。

22ページをご覧ください。「ICTの活用」のうち、②としてICTの活用による効果にかかわるの回答の結果です。すべての項目で全国を上回り、左側の「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」、右側の「楽しみながら学習を進めることができる」の差が大きい状況です。

23ページをご覧ください。「主体的・対話的で深い学び」の結果です。9項目中5項目で全国を上回り、特に、左側の「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」の差が大きい状況です。

24ページをご覧ください。中学校の「生活習慣・学習習慣」の結果です。右側の「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「毎日同じくらいの時刻に起きている」は全国を上回りましたが、それ以外は全国を下回っており、特に、「平日の授業時間以外の勉強の時間」、「土曜日や日曜日の勉強の時間」の差が大きい状況です。なお、「新聞を読んでいる」については、最も肯定的な回答が0であったことから、全国比も0になっています。

25ページをご覧ください。「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、社会参加等」の結果です。右側の「人が困っているときは進んで助けている」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は全国を上回りましたが、それ以外は全国を下回っており、特に「学校に行くのは楽しいと思う」の差が大きい状況です。

26ページをご覧ください。「ICTの活用」の結果です。中学校では基本的な操作にかかわる質問のみとなっています。「ICT機器を使って文章を作成することができる」は全国を上回りましたが、それ以外の項目は全国を下回りました。

27ページをご覧ください。「主体的・対話的で深い学び」の結果です。すべての項目で全国を下回り、特に、上の「自分の考えがうまく伝わるようにする工夫」、「学習した内容を次の学習につなげること」の差が大きい状況です。

28ページをご覧ください。「全体の傾向」です。小学校が29ページまで、中学校が30・31ページで、これまで申し上げてきた傾向を記述しています。内容は割愛します。

32ページをご覧ください。今回の調査結果を踏まえた「今後の方策」を示しています。まず、目指す方向性として、教育行政執行方針にも謳われている「『誰一人取り残すことのない教育』の実現を通じて『自立した学習者』を育成します」とし、学校の取組、教育委員会の取組について、昨年度と同じ枠組みでそれぞれ記載しました。

義務教育学校の開校まで、1年半を切る中であって、小中一貫教育をより一層推進するとともに、リーディングDXスクール事業の取組を加速するなどして、長沼っ子の学力の一層の向上に努めてまいりたいと考えています。

なお、33ページ以降は、これまでの調査結果の推移、同一児童生徒の変化、標準学力検査の結果を参考として掲載していますので、後ほどご覧ください。

以上で説明を終わります。

八柳教育長

説明が終わりましたので、質疑を承ります。

天野委員

今後、説明していただいたものは公表されるのでしょうか。

藤田参事

報告書につきましては、教育委員会での報告および校長会議において、校長、教頭と共有するといったところで、広く外部には公表しないこととしています。

天野委員

もう1点、「自分にはいいところがある」という自己肯定感のところなんですけど、これは、先ほど一番「当てはまる」だけをとっての数字だという説明でしたが、これが「どちらかといえば当てはまる」まで入れると、全国的にはどうだったのかな

と思うのですが。そこまでのデータはないでしょうか。

藤田参事

今、データを持ち合わせていないので、項目によっては違いがあるかもしれませんが、最も肯定的な回答と、その次にやや思うなどの回答を合わせますと、全国との差は小さくなる傾向があるものと受け止めています。最も肯定的な回答を比較することで、全国の差が一層分かりやすいという観点から、最も肯定的な回答の数値を示しているところです。

天野委員

先ほど学校訪問をさせていただいた際、小学校よりこの件について資料と説明をいただき、「まったく自分にはいいところがないと思う」と答えた子が少ないというふうに思いましたので、そこを全国的に見たらどうなのかなど、何か対比するものがあれば、また教えていただければと思いました。

もう1点、新聞を読んでいるかという質問は、ただ新聞を読むのか、それとも情報を得るためというところを設問しているのか。今の子どもたちは、ネットなどで情報を得ているということもたくさんあると思うので、それが新聞という1つの紙面として、あくまでも配られている新聞というところに限定されているのでしょうか。

藤田参事

配られている新聞を想定して回答しているものと受け止めています。

天野委員

わかりました。ありがとうございます。

八柳教育長

他にございませんか。

桃野委員

私も新聞についてですが、小学校のときには新聞を読んでいるが、111.4%に対して、中学3年生では0になっており、この差はどうしてこのように出ているのか。先生の指導の仕方なのか、ちょっとあまりにも差がありすぎるなと思いました。大変残念な結果だと思います。

藤田参事

この質問に対する最も肯定的な回答は、新聞を「ほぼ毎日読む」という選択肢であったと記憶しています。今後、この質問に対する回答状況をよりきめ細かく分析したいと考えております。いずれにしても、新聞は1つの情報源としては有効でございますので、各学校と情報を共有しながら、今後の取り組みに生かしていきたいと思っております。

桃野委員

ありがとうございます。

八柳教育長 他にございませんか。

(なしの声)

八柳教育長 この報告書について公表はなしと先ほどお話がありましたが、各校においては、各校の分析を学校だよりにて保護者さんには、お知らせをするということにはなっておりますので、念のためにお伝えをしておきたいと思います。

では以上で質疑を終結いたします。

八柳教育長 報告第1号『全国学力・学習状況調査結果について』は、報告済みとして処理いたします。

八柳教育長 日程第5、『長沼町教育実践奨励表彰被表彰者の決定について』議案第1号を議題といたします。提案理由の説明を、藤田学校教育課参事より申し上げます。

藤田参事 議案の2ページ目をお開き願います。議案第1号『長沼町教育実践奨励表彰被表彰者の決定について』。長沼町教育実践奨励表彰規則第4条第3項の規定に基づき、別紙のとおり被表彰者を決定する。令和7年11月14日提出。長沼町教育委員会教育長 八柳圭。

議案3ページ目をお開き願います。

11月10日開催の「長沼町教育実践奨励表彰 審査委員会」において決定されました3件でございます。なお、決定後に表彰式を挙げる予定です。

それでは、ご説明申し上げます。

はじめに、「振興賞」です。被表彰者は1個人です。

部門は「教育実践」、氏名「谷淵友美」

推薦理由は、「令和7年度日本PTA全国協議会 会長表彰 個人表彰受賞」並びに「令和7年度北海道PTA連合会 会長表彰 個人表彰受賞」です。受賞の理由及び実績等については記載のとおりです。審査結果は「可」です。

次に、「奨励賞」です。被表彰者は、1団体、1個人の2者です。

1者目について、部門は「教育実践」、団体名「長沼町立長沼小学校PTA」

推薦理由は、「令和7年度日本PTA全国協議会 会長表彰 団体表彰受賞」並びに「令和7年度北海道PTA連合会 会長表彰 団体表彰受賞」です。受賞の理由及び実績等については記載のとおりです。審査結果は「可」です。

2者目について、部門は「文化」、氏名「池下美緒」

推薦理由は、「令和7年度少年の主張 空知大会 最優秀賞受賞」並びに「令和7年度少年の主張 北海道大会 奨励賞受賞」です。審査結果は「可」です。

以上で選考理由の説明を終わります。よろしくご審議お願いします。

八柳教育長 説明が終わりましたので、質疑を承ります。

(なしの声)

八柳教育長 質疑がありませんので終結し、1件ずつ採決を行います。

八柳教育長 1件目の「教育実践振興賞」の谷渕友美さんについて、審査委員会からの報告結果は「可」ですが、原案のとおり「教育実践振興賞」として決定することにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

八柳教育長 ご異議なしと認め、谷渕友美さんについては「教育実践振興賞」に決定いたしました。

八柳教育長 続きまして、2件目の「教育実践奨励賞」の長沼町立長沼小学校PTAについて、審査委員会からの報告結果は「可」ですが、原案のとおり「教育実践奨励賞」として決定することにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

八柳教育長 ご異議なしと認め、長沼町立長沼小学校PTAについては「教育実践奨励賞」に決定いたしました。

八柳教育長 続きまして、3件目の「文化奨励賞」の池下美緒さんについて、審査委員会からの報告結果は「可」ですが、原案のとおり「文化奨励賞」として決定することにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

八柳教育長 ご異議なしと認め、池下美緒さんについては「教育実践奨励賞」に決定いたしました。

八柳教育長 以上で、本日付議されました議案の審議は全て終わりましたが、その他の案件に

ついて、事務局から何かありますか。

藤田参事

特にありません。

八柳教育長

皆様から何かございますか。

(なしの声)

八柳教育長

無いようですので、これをもちまして、令和7年度 第3回 長沼町教育委員会 臨時会を閉会といたします。大変ご苦勞様でした。

令和7年度第3回長沼町教育委員会臨時会議事日程

令和7年11月14日 午後3時30分開議

- 日程第1 会議録署名委員の指名
- 日程第2 前回会議録の承認について
- 日程第3 教育長業務報告
- 日程第4 全国学力・学習状況調査結果について (報告第1号)
- 日程第5 長沼町教育実践奨励表彰被表彰者の決定について
(議案第1号)